

今月の便り

ヒメオドリコソウ

ヒメオドリコソウ（姫踊り子草 学名：Lamium purpureum）は、ヨーロッパ原産のシソ科の越年草です。北アメリカや東アジアにも帰化していて茎の上部の包葉が紫紅色を帯びるのが特徴です。日本では明治時代中期に帰化し、今では日本全土で見られます。道路脇や花壇の隅、田畑のあぜ道、空き地など、身近なところに自生しています。ほかの植物より一足早く成長し花を咲かせ群生していると花よりも苞葉が目立ち、ピンクの絨毯のようです。岩見沢付近でも桜が咲き始めるころ、田んぼのあぜや道端で群生しているのを見ることができます。植物は子孫を残すために、種をいかにして新たな地に運ぶか工夫しながら進化してきました。一般的には風で飛ぶ、鳥や動物に食べられる等が知られていますが、エライオソームによってアリに散布させ

Lamium purpureum ヒメオドリコソウ



る植物があります。エライオソームはアリを引き寄せる誘引物質の事で、これを持つ植物は200種類ほどが知られています。様々な植物が取り入れています。背の低い草花が多い傾向にあります。ヒメオドリコソウもその一つでしかも同じシソ科のホトケノザより大きいエライオソームを持つことで、ホトケノザよりより生息域を広げやすいといわれています。そのホトケノザとヒメオドリコソウはとてもよく似ていて、見分け方は葉が三角形で先端が尖っていて上部の葉がピンク色で下向きにつくのがヒメオドリコソウ。ホトケノザは、葉が茎を巻き上向きにつき色の变化はありません。（いとう）

春に向けてバラを楽しもう

雪が少なかった庭の冬が困いの中で、バラの株は無事に越冬出来たでしょうか？雪が少ないと凍害の心配、雪が多ければ枝折れの心配と雪の保護があるか無いのかで、状態が変わって来るのも北国ならではの。それぞれのバラの系統のハーディネスゾーン（耐寒度）を参考に品種選びが必要です。北海道でのバラ作りを楽しむには、居住地域の気候を知る事も大切です。バラが咲く場面を思い描きながら、系統別のたくさんの品種から選ぶ楽しさも大切だと思います。バラにはいろいろな樹形や花形と魅力的な香りも、見逃すことはできません。花色合わせも、配色の色彩の三属性、彩度、明度、色相をイメージして見るとお庭の中も華やかで楽しく

*「今月の便り」 次ページへつづく⇒

なります。ご自宅の環境に合わせてどう仕立てるのか？土壌環境、水はけなどバラは水もちの良い粘りのあるやや重めの土質を好みます。新発売のバラの情報も 2026 年新品種として魅力的なバラが販売されるので、カタログを見ながら選ぶだけでもワクワクしますね。市民園芸講座では、毎月バラの講習会が有り実際にバラに触れて管理ができる様にボランティア活動も開催されています。参加されてより美しく咲かせるバラの魅力を実感してください。

(たかはし)

大根のホウ素欠乏

冬野菜の代表選手である大根。春や秋に家庭菜園で種子から作る定番の野菜なので作ったことのある人は多いと思います。その大根について以前こんな相談を受けたことがあります。家庭菜園で作った大根を切ると中が黒ずんでいてダメだったとのこと。その時はおそらく「ホウ素欠乏」なのではと答えました。ホウ素という元素は野菜が育つのに微量に必要な元素です。どの野菜が生育するのにも少しは必要ですが、アブラナ科の植物はほかの野菜よりかはホウ素が必要です。それを野菜が成長途中で摂取できないで欠乏してしまう時は、以下のことが考えられます。一つは土壌の問題。畑に石灰を過剰に入れてしまうと畑の PH がアルカリに傾いてホウ素が溶け出せず、根から吸収できません。アブラナ科の野菜を育てる時は PH がアルカリに傾いていないか気をつけましょう。岩見沢には少ないと思いますが、砂質の土壌も微量元素が流れやすいので気をつけてください。市販の堆肥や有機質肥料に含まれる微量元素の中で多いのは鉄でホウ素は僅かです。前年度にホウ素欠乏のような大根になってしまった場合は、ホウ素入りの肥料を使ってみると良いでしょう。また種子を蒔いた後、成長の途中に高温で雨が降らなくてもホウ素欠乏になります。そんな場合は灌水をしてみてください。そして大根の生育適温は 17 度から 20 度です。(きのした)

今月の市民園芸講座のご案内



●3月7日(土) 色彩館でスケッチしよう 10:00～12:00

参加費：無料 定員：15名 講師：藤川 志朗 さん

●3月21日(土) ばらゼミ① 10:00～12:00

参加費：無料 定員：40名 講師：古舘 杏奈 さん

※お申し込みは講座開催月の1日9:00～電話で受付しております。

※最新の開催状況についてはお電話かホームページにてご確認ください。

電話:0126-25-6111 ホームページ:<https://iwamizawa-park.com/>

※資料ご用意の都合上、なるべく事前のお申し込みをお願いいたします。

連絡なしの欠席・遅刻はお申し込みをしたい方のご迷惑となりますのでご遠慮ください。

※換気の為、扉・窓等を開放いたします。悪天の際は暖かい格好でお越しください。

ひとつき ひとつバラ



文： 小 林 薫
(いわみざわ公園バラ園)

第百三十五回

番外編 大温室つるバラ②

前回から3号にわたり、色彩館大温室のつるバラを特集しています。3月中旬から5月下旬に見頃を迎え、屋外では越冬できない品種、室内だからこそ、より楽しめる品種を揃えています。早咲きから遅咲きまで順に開花のリレーが続きますので、時期を変えて何度かいらっしやると、違った風景が楽しめておすすめです。

⑧ ファイルフェンブラウ Veilchenblau

系統：ランブラー 作出国/年：ドイツ/1909 耐寒度：Z4 開花性：一季咲 香り：微香
特徴：ノイバラの血を受け継ぎ、強健で耐寒性にも優れる。品種名はドイツ語で「すみれ色」の意味。別名ブルーランブラー。先月号で紹介したヴァイオレットと同じく、咲き進むと青みが増し、日陰で花色が冴える。

⑨ エクセルサ Excelsa

系統：ランブラー 作出国/年：アメリカ/1909 耐寒度：Z5 開花性：一季咲 香り：微香
特徴：品種名はラテン語で「崇高な」の意味。ランブラーの定番品種であるドロシーパーキンスの枝変わりとなされ、別名レッドドロシーパーキンスと呼ばれる。小輪ポンポン咲きで、ローズレッドが美しい。枝は細くしなやかで、壁面への利用に適している。

⑩ ピエールドゥロンサール Pierre de Ronsard

系統：ラージフラワークライマー 作出国/年：フランス/1985 耐寒度：Z5
開花性：返り咲 香り：微香
特徴：豪華な大輪で、クラシックな花形が人気。大輪には珍しく花首が短いため、壁面に仕立てると見事な咲き姿を見せてくれる。品種名は「バラの詩人」と呼ばれた16世紀ルネサンス期の詩人ピエール・ドゥ・ロンサールにちなむ。彼の詩を思わせる、ロマンチックな趣き。2006年世界ばら会連合「栄誉の殿堂」入り。

⑪ ブラッシュランブラー Blush Rambler

系統：ランブラー 作出国/年：イギリス/1903 耐寒度：Z6 開花性：一季咲 香り：微香
特徴：ピンクの半八重で、わずかにカップ咲きになる花がぎっしりと大きな房をつくる。咲き進むと白みがかかり、グラデーションが美しい。枝は強健で、生育旺盛。交配親は、多くのノイバラ系ランブラーの交配親となったクリームゾンランブラー。

次ページへつづく⇒

⑫ フランシス E レスター Francis E. Lester

系統：ハイブリッドムスク 作出国/年：アメリカ/1946 耐寒度：Z6

開花性：一季咲 香り：微香

特徴：一重の白い花弁にピンクの縁取り、黄色い花芯が野ばらのようで可愛らしい。2015年11月号の「ひとつきひとつばら」で紹介当時、すでに「10年を超えた貫禄のある大株」とあり、おそらく現在20年を超えているが、樹勢の強さは健在。

⑬ Paul' s Himalayan Musk Rambler

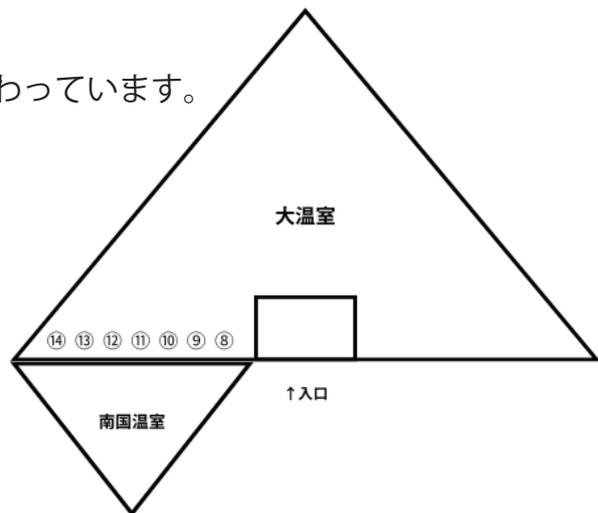
⑥と同じ。先月号を参照ください。

⑭ フランソワ ジュランヴィル François Juranville

系統：ランブラー 作出国/年：フランス/1906 耐寒度：Z4 開花性：一季咲 香り：中香

特徴：サーモンピンク、コーラルピンクの花びらがぎっしりと詰まったさまが上品で美しい。枝はトゲが少なくしなやかなで、自由に誘引ができるが、良く伸びるため広い場所が必要。リンゴのような甘い香り。

今回ご紹介した7品種は、大温室に入って左手に植わっています。
次号、色彩館大温室つるバラ特集の最終号です！



【いわみざわ公園 色彩館 つるばらクイズ (初級)】

- ① エクセルサはどの品種の枝変わりで生まれたとされているでしょう？
- ② ピエール ドゥ ロンサールが2006年に受賞した賞は何でしょう？
- ③ フランソワ ジュランヴィルの香りは何の香りに例えられるでしょう？

【いわみざわ公園 色彩館 つるばらクイズ (上級)】

- ① ファイルフェンブラウはランブラーですが、何系統のランブラーでしょう？
- ② ブラッシュランブラーはいわみざわ公園の屋外花壇にも植わっています。どのエリアに植えてあるでしょう？
- ③ フランシス E レスターの名はアメリカで活動した育種家フランシス E レスター氏にちなみですが、彼の出身地はどこだったでしょう？

★つるバラクイズ 先月号のこたえ★

(初級) ①白八重 ②ファイルフェンブラウ ③桜

(上級) ①スヴニール ドゥ セントアンズ ②長日条件 ③「常緑の」